

平成 18 年（2006 年）2 月 24 日

山陽小野田市長 白井博文 様

まちづくり市民会議「ごみ処理対策」部会

提言書

(1) 課題名

市のごみ処理対策について

(2) 提言内容

①課題について

ごみ処理には多大な経費（私たちの税金）が必要で、特にごみ処理施設の建設には、百億円前後の費用がかかるといわれている。また、現在使用のごみ処理施設（焼却施設）は、建設から 24 年経っており毎年の維持補修費も相当の金額になっている。新施設建設は非常に厳しい財政状況ではそれも望めず、現在の施設を一日でも長く使用できるように、施設への負担をできるだけ軽減しなければならない。そのためには、ごみの減量及び再資源化の推進がもっとも効果的であるという観点から協議を重ねた。

②提言内容

1) ごみの分別方法について

① 現在、小野田地区と山陽地区では分別区分が違っているので統一する。また将来的には、もっと細かく分別する。

② 可燃ごみの収集回数について

週 2 回とする。ただし、収集日が祝祭日であっても必ず週 2 回は収集する。現在、小野田地区では週 3 回、山陽地区では週 2 回の収集であるが、ごみ減量化の観点から週 2 回の方が減量化につながるということになった。

また、可燃ごみ収集を週 2 回にすることにより、小野田地区の白色トレイと発泡スチロールの収集日を設け、資源化を図る。

2) ごみ指定袋について

① 仕様について

- ・色形ともシンプルな今の袋でよい。
- ・現在の袋でも減量化した。
- ・カラス対策のための着色や取手をつけてほしいとの意見が出たが高つつくということで現行のままという結論に至った。

② 指定袋の有料化（指定袋へのごみ処理料の上乗せ）について

現在市販されている 20 枚入りのごみ袋の価格に 50 円ぐらいの処理経費を上乗せした額が妥当だと考える。以前、小野田地区では毎月一戸あたり 50 円のごみ処理料を徴収（年間約 900 万円）していたが、現在は徴収していない。市の財政状況を考えると処理費用を上乗せが妥当であるが、金額については一気に高くすると市民の理解が得られないとの理由から、50 円ぐらいとの結論に至った。

【次ページにつづく】